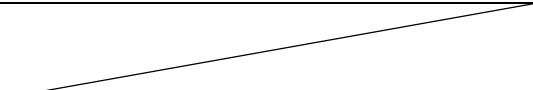


テーマ	部門別個別原価計算（製造部門費の製品への配賦）、個別原価計算における仕損			
学籍番号				氏 名 

1. 部門別個別原価計算を採用している経法工業の 10 月の製造活動に関する次の資料に基づき、指図書別原価計算表、A 製造部門勘定及び動力部門勘定への記入を行いなさい。

【資料】

- (1) 当社の工場には、A 製造部門と B 製造部門という 2 つの製造部門と、動力部門と事務部門という 2 つの補助部門が設けられている。
- (2) 当月の指図書別直接材料消費量は次のとおりであった。なお、材料の消費額は予定価格@280 円で計算している。

	No.101	No.201	No.301
実際消費量	—	950kg	700kg

- (3) 直接工の消費賃金（すべて直接労務費）については、部門別予定賃率を用いて算定されている。

- ① 予定賃率に関するデータは次のとおりである。

	年間賃金予算額	年間予定就業時間
A 製造部門	¥4,500,000	10,000 時間
B 製造部門	¥2,730,000	7,000 時間

- ② 当月の指図書別の直接作業時間は次のとおりである。

	No.101	No.201	No.301
A 製造部門	210 時間	350 時間	190 時間
B 製造部門	120 時間	270 時間	100 時間

- (4) 製造間接費は部門別計算により、直接作業時間を基準として予定配賦を行う。また、補助部門費の予算の配賦に関しては、複数基準・階梯式配賦法により、変動費については予定変動費率に予定消費量を掛けた金額を配賦し、固定費については予算額を消費能力の割合で配賦する。

- ① 各部門の月額予算（部門共通費配賦後）

	A 製造部門	B 製造部門	動力部門	事務部門
変動費	¥190,400	¥116,600	¥112,000	—
固定費	¥187,000	¥96,000	¥117,000	¥105,000

- ② 補助部門の提供するサービスの消費能力

	A 製造部門	B 製造部門	動力部門	事務部門
変動費	8,000kwh	7,500kwh	—	—
固定費	30 人	25 人	15 人	—

- ③ 補助部門の提供するサービスの予定消費量と実際消費量

	A 製造部門	B 製造部門
動力予定消費量	7,200kwh	6,800kwh
動力実際消費量	7,000kwh	6,500kwh

- ④ 製造部門の基準操業度（月間）は、A 製造部門が 800 直接作業時間、B 製造部門は 600 直接作業時間である。

テーマ	部門別個別原価計算（製造部門費の製品への配賦）、個別原価計算における仕損			
学籍番号			氏 名	

⑤ 各部門の実際発生額（部門共通費配賦後）

	A 製造部門	B 製造部門	動力部門	事務部門
実際発生額	¥354,500	¥190,000	¥232,500	¥105,000

- (5) 指図書No.101 は前月から繰り越されたものであり、月初仕掛品原価は310,000円である。指図書No.201 とNo.301 は当月着手したものである。
- (6) 指図書No.101 とNo.201 は当月中に完成し、顧客への引渡しも完了している。No.301 は月末時点で仕掛中である。

指図書別原価計算表

(単位：円)

摘 要	No.101	No.201	No.301	合 計
月初仕掛品原価	310,000	—	—	310,000
直接材料費	—	266,000	196,000	462,000
直接労務費	141,300	262,800	124,500	528,600
製造間接費				
A 製造部門	144,900	241,500	131,100	517,500
B 製造部門	74,400	167,400	62,000	303,800
製造原価	670,600	937,700	513,600	2,121,900
備考	完成	完成	仕掛中	

A 製造部門

(単位：円)

製造間接費	354,500	仕掛品	(517,500)
動力部門	(128,000)	操業度差異	(19,000)
事務部門	(45,000)		
予算差異	(9,000)		
	<u>(536,500)</u>		<u>(536,500)</u>

動力部門

(単位：円)

製造間接費	232,500	A 製造部門	(128,000)
事務部門	(22,500)	B 製造部門	(119,500)
		予算差異	(7,500)
	<u>(255,000)</u>		<u>(255,000)</u>

テーマ	部門別個別原価計算（製造部門費の製品への配賦）、個別原価計算における仕損					
学籍番号						氏 名

2. 次の資料に基づき、指図書別原価計算表を作成するとともに、仕掛品勘定の記入を行いなさい。

【資料】

① 当月の生産状況：

No.100 を製造着手したが、一部仕損になったため、補修繕指図書No.100-2 を発行した。

No.200 を製造着手したが、全部が仕損になったため、代品製作指図書No.200-2 を発行した。

No.300 を製造着手したが、一部が仕損になったため、代品製作指図書No.300-2 を発行した。

② 当月の指図書別消費量

	No.100	No.200	No.300	No.100-2	No.200-2	No.300-2
直接材料	80kg	60kg	50kg	14kg	60kg	16kg
直接作業時間	44 時間	36 時間	30 時間	4 時間	40 時間	8 時間

③ 直接材料費は予定価格@600 円、直接労務費は予定賃率@1,300 円、製造間接費は直接作業時間を基準として予定配賦を行う。なお、予定配賦率は@1,400 円である。

④ No.200 に関して生じた仕損費には、総額 8,800 円の売却処分価額が見積もられた。

⑤ 仕損費の処理については、No.200 に関する仕損費は異常仕損費とし、それ以外については該当する指図書に直課する。

⑥ No.200 に関する代品は未完成であるが、それ以外はすべて完成した。

	No.100	No.200	No.300	No.100-2	No.200-2	No.300-2
直接材料費	48,000	36,000	30,000	8,400	36,000	9,600
直接労務費	57,200	46,800	39,000	5,200	52,000	10,400
製造間接費	61,600	50,400	42,000	5,600	56,000	11,200
合 計	166,800	133,200	111,000	19,200	144,000	31,200
評 価 額	—	△8,800	—	—	—	—
仕 損 費	19,200	△124,400	31,200	△19,200	—	△31,200
製 造 原 価	186,000	0	142,200	0	144,000	0
備 考	完成	非原価	完成	No.100 へ	月末仕掛中	No.300 へ

仕 掛 品

材 料	(168,000)	製 品	(328,200)
賃 金	(210,600)	損 益	(124,400)
製 造 間 接 費	(226,800)	評 価 額	(8,800)
		次 月 繰 越	(144,000)
	<u>(605,400)</u>		<u>(605,400)</u>